

花高同窓会会報



第111号

発行 平成28年3月1日

秋 田 県 立 花 輪 高 等 学 校
同 窓 会 事 務 局

〒018-5201 鹿角市花輪字明堂長根12

TEL0186-23-2126 FAX0186-23-2137

URL <http://www.ink.or.jp/~hanakoudosou/>

印刷 (株)大館印刷



インカレ開催地花輪スキー場

この夏、皆様には大変重たい、そして意義深い権利が与えられることになりました。ご承知の通り、国、地方における18歳以上の人に選挙権が与えられることになったことであります。この世に生を受けると同時に政治、行政に関わり、のらない事柄は皆無と言えます。保育園から学校、進学、就職、結婚、子育て、健康、老後、すべての段階において、その時々々の法律規則によって左右されます。その法律を制定するのが国会であり、地方議会でもあります。その構成員である議員を選出する権利が皆様に与えられることとなります。皆さんの一票によって、世の中に変化をもたらし可能性が広がります。とはいながらも初めてのこのことなので、何をどうすればいいのかわ戸惑っているのが実情ではないでしょうか。全く無関心な人もおられるでしょう。しかし、皆さんの一票を投じることで国の行く末、地域の変化が生まれることになったとしたら、これ以上痛快なことはないでしょう。皆さんもすでにクラス委員の選出、生徒会役員の選出で選挙経験はあるはずです。いずれ

記念寄稿

『投票について』

旭日双光章叙勲 遠藤 嗣 所 (高12期)



配布されるであろう選挙公報をよく読み、候補者が何をしようとしているのかよく吟味して下さい。自分の考えに近い人を選ぶことが肝要です。投票することは、それが与えられた権利を行使する国民の義務です。

私ごとで恐縮ですが、私自身過去に20年間市議会議員として行政、政治に関与してきました。鹿角市が発足して5年後のことで、35歳の時でした。市としての内容充実を図るべきと考えたからです。合併前の4町村の壁を取り除こうとしたのです。

今にして思えば、そのように出来たかどうかは良く分からないのですが、何かの種は播いたのではないかと考えております。いずれ、投票行動をすることによって、皆さんの中から政治に関心を持つ人も出てくるものと思います。

人口減少、高齢化など数々の課題をクリアしてくるのは皆さんの若いパワーに頼るしかありません。故郷の存続と進展のために力を発揮して下さい。

プロフィール

旭日双光章叙勲。(地方自治功労)昭和16年生まれ。明治大学卒。昭和52年4月に初当選して以来、平成9年3月まで連続5期20年にわたり鹿角市議。平成元年から5年3月まで議長を務めた。市防犯協会会長など歴任。

創立90周年記念講演

〔開催日〕10月1日(土)
〔時間〕14時15分～15時45分

講師：二宮 清純 氏
(スポーツジャーナリスト)



1960年2月25日 愛媛県生まれ
〔役職〕(株)スポーツコミュニケーションズ代表取締役
東北楽天ゴールデンイーグルス経営評議委員
日本サッカーミュージアムアドバイザーボード委員

1960年、愛媛県生まれ。

スポーツ紙や流通紙の記者を経てフリーのスポーツジャーナリストとして独立。オリンピック、サッカーW杯、メジャーリーグ、ボクシング世界戦など国内外で幅広い取材活動を展開中。

東北楽天ゴールデンイーグルス経営評議委員。日本サッカーミュージアムアドバイザーボード委員。

受賞歴

1996年ギャラクシー賞優秀賞
「野茂&ラモスのドリームトーク」

書籍

「スポーツ名勝負物語」(講談社現代新書)
「最強のプロ野球論」(講談社現代新書)

「勝者の組織改革」(PHP新書)

「勝者の思考法」(PHP新書)

「プロ野球戦略会議」(廣済堂出版)

「スポーツを「見る」技術」(講談社現代新書)
など著書多数

ホームカミングデイ

〔受付〕11時～12時

〔会場〕第二体育館(控室兼)

〔展示〕これまでの写真パネル

〔歓迎〕応援団によるエール

ブルスバンドのアンサンブル演奏

校舎案内

〔軽食〕お茶とおにぎり

野球招待試合

〔開催日〕6月2日(木)

〔場所〕城山球場(尾去沢)

〔対戦〕秋田商業高等学校

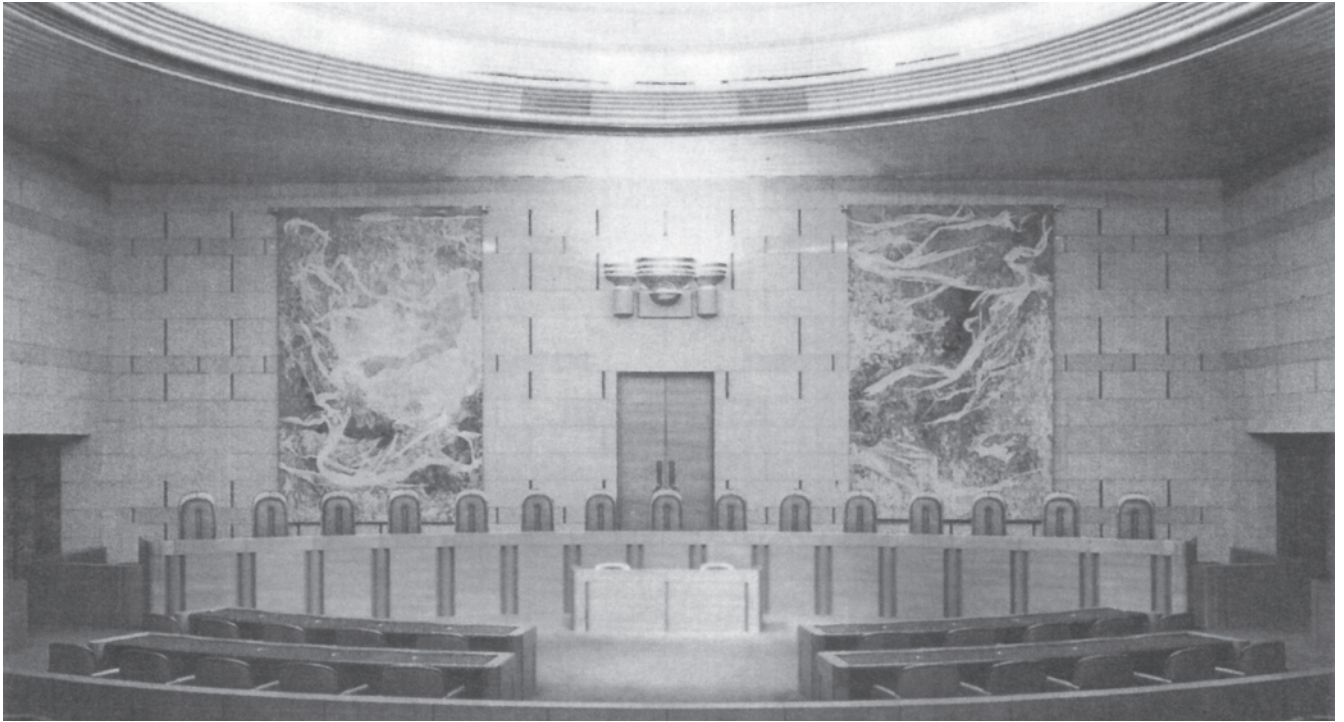
記念演奏会(OB合同)

〔開催日〕9月18日(日)

〔場所〕コモッセ・音楽ホール

〔時間〕1部 13時～15時(生徒)

2部 17時～19時(一般)



最高裁判所・大法廷タペストリー「日・月」原画制作

特別寄稿

『日本画と私』

日本画家・川村学園名誉教授 小松省三（高8期）



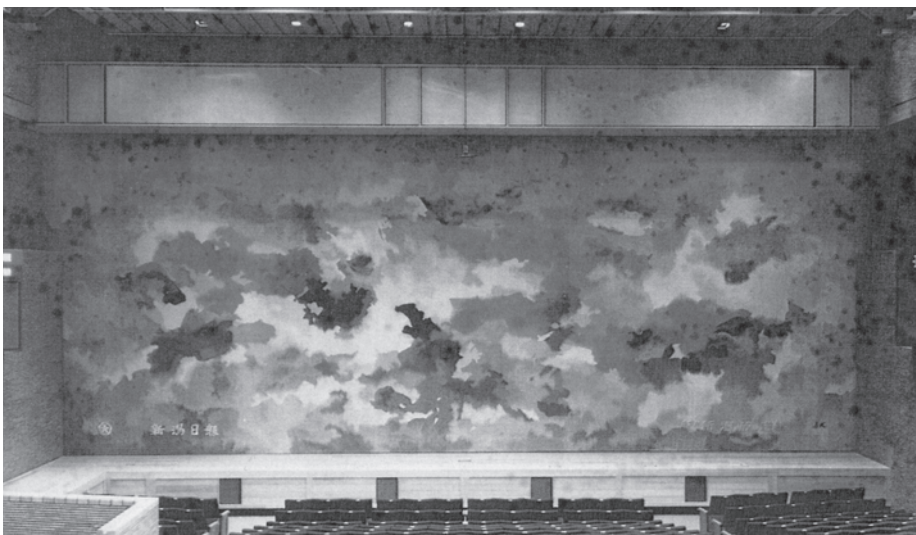
私の花輪高校時代は、音楽部に所属して、合唱と吹奏楽の活動をしておりました。今は東北地区で優秀な成績をあげているとのことですが、私（私たち）の頃は予算もなく、ハーモニカを主力とする編成で、文字通りの吹奏楽部の草分けの時代でした。テーマ曲は、アンカーザウエイの「錨をあげて」でした。今思うと内容よりも音楽へのあこがれの行動でした。

私が芸大に合格した時、だれもが音楽学部と思っていたようですが美術学部の日本画科でした。芸大は、学科と実技の両方が優れていなければ合格することができませんでした。私は、学科には自信がありました、実技（ピアノ）には自信がありませんでした。日本画の実技に自信があった訳ではありませんが、絵画の方が少しは自信がありましたので、日本画科を受験したのでした。これも実に偶然なことですが、私は時々東京

へ行く機会があり、その時に小林古径の個展を見ることになりました。古径の清潔感あふれる絵画に接して、日本画の世界に入ろうと思ったのです。先に申したように、芸大では学科と実技がともなわなければ合格できません。私は意を決して、美術学部・日本画科を目指しました。血の滲むような六ヶ月でしたが、努力をして合格までこぎつけたのです。現在もそうです

が、芸大は浪人が多い中で、私は現役一回で合格することができました。

最後に、花高後輩の皆さんへ「運と努力と実力があいまって一事業が成就する」と言う私からのメッセージを贈ります。



新潟市音楽文化会館・緞帳「生命の讃歌」

プロフィール

秋田・鹿角市生まれ。東京芸術大学・美術学部日本画科卒業。大山忠作画伯に師事。日展・日春展・グループ展・個展・外遊、各賞受賞。外務省賞上。日展会友。川村学園名誉教授。代表作・最高裁判所大法廷タペストリー「日・月」原画制作。新潟市音楽文化会館緞帳「生命の讃歌」制作等。

『かたづの』

中島京子 著

浅利 幸子 (高25期)

「片角」という字をあてるのでしようか？一本しか角を持たないかもしれないが八戸を追われ遠野へ追いやられる八戸南部氏一族の女領主となった柊々の一生を見守り語る形で書かれています。八戸南部家と南部本家との軋轢、その果ての遠野行き！その昔南部領であった鹿角の地名や九戸、五戸、盛岡など私たちには親しみのある地名がたくさん出てきます。南部弁も好ましく郷愁を誘うような……。かたづのが死に、魂が柊々や家族を守り「南部の秘宝片角」となります。一頭のかもしかが語る南部一族の盛衰、類をみない作品と思います。

作者は、映画で数々の賞をとった「ちいさなおうち」の中島京子初の時代小説です。鹿角を離れて行く方たちに、故郷を思いおこす一冊にして頂きたいと思います。もちろん、私にとっても大切な一冊です。

(浅利書店)

『十二国記シリーズ』全七巻

小野不由美 著

工藤 町子 (高28期)

はてさて、自分の好みを人に薦めるのはとても難しい事ですが、

今も自分を奮い立たせる時に何度も読む本を挙げたいと思います。

俗に言うファンタジー物、架空の国の物語です。十二の国から成る世界。王を選ぶ霊獣がいたり、天上より課せられた決め事により国家が繁栄と滅亡を繰り返しています。子供向けと思いきや、国とは何か、王が存在する意味、政治とは何か、色々な要素を盛り込んで一国一國の話は劇的に展開していきます。特に、普通の高校生の陽子が王に選ばれ心身共に成長していく一巻は感情を揺さ振られます。

十数年前、高校生だった息子の友人とこの本を貸し借りして意見交換しました。彼はどこかで元気に頑張っている事でしょう。

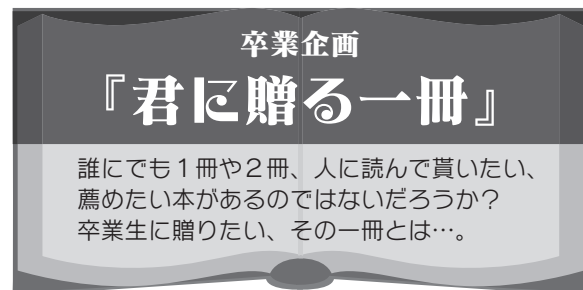
(工藤履物店)

『火炎 北の耀星アテルイ』

高橋克彦 著

佐藤 澄果 (高46期)

皆さんが思い描く愛しい未来ってどんなカタチ？誇り高くいるために自分が貫くべき信念とはなにか？



誰にでも1冊や2冊、人に読んで貰いたい、薦めたい本があるのではないだろうか？
卒業生に贈りたい、その一冊とは…。

進むべき道に迷ったとき、自分が何者かわからなくなったときに手に取ってほしいのが平安時代の東北を舞台としたこの小説です。

「道の奥に暮らす蝦夷」と蔑まれ生活していた陸奥の民。しかし、朝廷の圧倒的な力にも屈せず「蝦夷としての誇り」を命を懸けて守る主人公アテルイ。彼は愛する人々と美しきこの故郷の未来を守りたいとの一心だけで生きていました。東北がいつまでも豊穡と慈愛にあふれた場所であると信じていた。そのためなら「笑って死ぬ」そう言ったアテルイの凄まじいまでの信念が胸に迫ります。この物語の中に鹿角は「黄金の里」として登場します。歴史のうねりの中で要の地であった鹿角の地で育ったことを、きつと誇りに感じられるでしょう。花高の高山からは蝦夷として生きた人々と同じ空を眺め、同じ山河を愛でることが出来ます。歴史の息吹を感じられる土地に生を享けた喜びをこの小説で皆さんもかみしめてみませんか？

(トザワ写真館)

『ブンとフン』

井上ひさし 著

奈良 努 (高25期)

人生の楽園というテレビ番組があるが、雨が降る午後に、枝豆をつまみ、ビール片手に好きな本でも読む。時を忘れて…。

僕はあまり読書は好きではなかった。読書といえば、夏休みの宿題などの読書感想文で、仕方なく読むくらいで決して楽しいものではなかったような気がする。

東京という大都会で暮らして遊び方の分からない田舎者の僕にとって、新宿の紀伊国屋書店のエスカレーターに乗って店内に入るのが都会らしくかつこ良かった。本を買うだけでなく、書棚のタイトルを見ただけで満足していた僕が手にした本が『ブンとフン』でした。作者が誰とか関係なく、タイトルがすごく気に入って購入した。売れない小説家フン先生の本から飛び出した大泥棒ブンが世界を「あー」と言わせる馬鹿馬鹿しさに引き込まれ笑い転げてしまう。読書の楽しさを僕に教えてくれた一冊である。

(常任幹事)

『おかげさまで生きる』

矢作直樹 著

田中 寛 (高25期)

先日読んだ本を紹介します。

「おかげさまで生きる」という題名にひかれこの本を手に入れました。

著者は、救急救命医学の現場の第一線で活躍している医師です。自分の人生や仕事の経験から、ふだん考えていることをまとめた本です。印象に残った言葉の中に、「対話の中にこそ学びがある。大事なものは相手と視点を合わせること。」という一節がありました。

私たちが人生を生きていく中でちよつと悩んだり考えたりした時に、それを解消するためのヒントとなる言葉が得られます。

各項目ごとにポイントになるまとめの部分があるため、比較的気楽に読み進めることができました。皆さんも機会がありましたら、ぜひ手にとってみてください。

(常任幹事)

『君に贈る本』ベスト10

- | | |
|-------------|--------------|
| ① こころ | 夏目漱石 |
| ② 永遠の0 | 百田尚樹 |
| ③ 竜馬がゆく | 司馬遼太郎 |
| ④ 博士の愛した数式 | 小川洋子 |
| ⑤ 夜のピクニック | 恩田陸 |
| ⑥ 風が強く吹いている | 三浦しをん |
| ⑦ 深夜特急 | 沢木耕太郎 |
| ⑧ 赤毛のアン | モンゴメリ |
| ⑨ 夜と霧 | ヴィクトール・フランクル |
| ⑩ きみの友だち | 重松清 |

さがげ新聞より

『ホノルルマラソン』

日本最高位7位

鈴木 絵里 (高54期)

1月13日、米ハワイ州ホノルルで日本人12,500人を含む約3万人の参加で開催。3年連続の日本勢トップの2時間47分43秒のタイムで、日本勢最高の7位でゴールした。ゴール後、救援テントに運ばれたが、関係者から日本人トップと知らされると「急に気分が良くなった。この大会は日本人で一番を狙っていた」と3年連続で目標達成し笑みが広がったと伝えている。おめでとうございます。

(能代山本陸上協)



笑顔のゴール!!

『おやつランク』

全国3位

岩船屋 岩船 勝広 (高31期)

来場者の投票で日本一を競う第6回「ニッポン全国おやつランキング」が1月20〜23日まで、東京都豊島区の池袋サンシャインで開催され、岩船屋(鹿角市、岩船勝広社長)の『味噌付けたんぽ』が3位に輝いた。焼けたタレの香ばしい匂いと甘辛い味が好評で、3日間で約2千本売れたと伝えている。

ちなみに1位は、「アセロラローズン」(沖縄県・アセロラフレッシュ)、2位は「安田の白い夢」(高知県・MINORUGROUP)だったようである。



大勢の来場者でにぎわったブース

…よろしくお願いします…

第68期クラス幹事 (H27年度卒)

A組	大森	駿	高杉	恵
B組	○勝山	柊太郎	小松谷	茅子
C組	田中	和樹	大西	恵実
D組	高橋	直樹	高村	美希子

○印は学年代表幹事



スキーインターハイ出場激励会 (よねしろ新聞より)

冬季インターハイ

激励会

去る1月18日、校長室において会長以下役員で、インターハイに出場する選手たちを激励した。今年は青森県大鰐温泉スキー場で「きらり光れ 津軽の雪原」が青春のイメージの下に開催される。

平成28年度 総会開催のご案内

- ・日時…平成28年5月15日(日) 午後5時〜
- ・場所…鹿角パークホテル・2F鳳凰殿
- ・会費…4,000円
- ・申込先…☎0186・23・2126 担当・木村まで

『18歳選挙権』

今年の参議員選挙から選挙権が十八歳からとなるので、現役の高校生もすべての選挙に投票する権利を取得することになる。そのことをテレビ・新聞等のマスコミでは特集を組み、関心が高まっている。世界的には、十八歳からの選挙権は九割の国で実施しているというので遅いという人もいます。若い世代の投票率が極端に低い日本では、これでは、少しは上げようとは思えない。



—— 吉村 アイ (高19期) 会報委員長 ——

ない。しかし、高校生世代が持っている純粋に人を見る目を信じて。一票を投じ、社会を見る目を養い、若い世代の投票率を上げる役割を果たしてほしい。そのためには、すべての政治家が、その責務を果たし、期待に答えなければならぬ。卒業シーズンの春は、もつすぐそこまで来ている。